

# パタゴニア取り扱い説明書



このたびは、パタゴニアのご予約をいただきまして誠にありがとうございます。

今回お乗りいただくパタゴニアはとても快適な車ですが、一般車と比べてその取り扱いに大きな違いがあります。

どうぞ出発までにこの取扱説明書の注意点をよくお読みください。

それらを意識しつつ丁寧に運転や操作をしていただければ、きっと今回の旅が快適で気持ちよくお過ごしいただけるものとなります。

この取扱説明書を印刷したものを車内にも置いてありますので、いつでも簡単に内容をご確認いただけます。

キャンピングカーは速度を出して軽快な走りを楽しむ車ではありません。

先を急ぐ車に道を譲ってのんびりと走りながら、周りの景色の移り変わりを楽しんでください。

そのような余裕のある運転がキャビンにいるご家族の快適さにつながります。

そして大切なご家族を守る意味でも「急」のつくような運転操作は避け、制限速度を守って安全運転を心がけてください。

無事故・無違反で楽しい思い出と共に無事にお帰りいただけることを心よりお待ちしております。

## パタゴニアの諸元

全長 525cm 幅 210cm 高さ 284cm 車両総重量 3250kg

乗車定員 (シートベルト数) 8名

推奨就寝定員 大人3名

エンジン フルタイム4WD ガソリン (2700cc)

## 車両利用料金に含まれている内容について

JoyCa 成田東和田（とうわだ）ステーションが行っているのは基本的にキャンピングカーの貸出です。つまり JoyCa より請求される利用料金の対象となるのは車両および車両付属品です。車中泊・キャンプに必要となるものはこの利用料金の対象外となりますのでご注意ください。

- ・ **キャンピングカー内で使用する寝具（枕を含む）・タオル等は利用者ご自身でご準備ください。**  
キャンピングカー内は、FF ヒーターやエアコンで快適にお過ごしいただけるよう温度設定が可能です。寝具としては、夏季シーズンであればタオルケット、それ以外のシーズンであれば普段のキャンプでお使いの寝袋やご家庭で使用されている毛布等で十分です。
- ・ **キャンプ場などで使用するキャンプ用品については原則として利用者ご自身でご準備ください。**  
キャンプ用品はご利用様が普段のキャンプで使用されているものをご利用ください。ただし、JoyCa のサービスとは別に東和田ステーション独自オプションとして、有料にてキャンプ道具の貸し出しがご利用いただけます。詳細については別紙をご覧ください。
- ・ **キャビン内は土足禁止となっています。外履き靴等の車内保管には車内に準備している白いポリ袋をご利用ください。ポリ袋の使用のみの場合は有料オプションの対象ではありませんので無料でお使いいただけます。**

## 運転操作上の注意点

パタゴニアは、**全長 5.25m、幅 2.1m、高さ 2.84m、重さは人と荷物も合わせると約 3.5 トン**あります。このため、運転の際に車体サイズに関わる留意事項が 6 つあります。

### ① 高さについて



画像を見ていただいても車高の高さが分かります。これまで自家用車を運転中に車の高さを気にしながら運転されたことはほとんどないと思います。しかし、キャンピングカーにとっては脅威となる高さ制限のある構造物がたくさんあります。



ファミレスやスーパーマーケットの立体駐車場は低いところだと高さ制限が 2m 程度のところがたくさんあります。また、コインパーキングの精算機の上方に雨よけの庇が飛び出ている場合もあります。コイン洗車場の入り口に門のように鉄骨のアーチが設置されているところも良くあります。田舎道を走っているとかなり背の低いトンネルを通過するように Google ナビに誘導されることもよくあります。

**キャンピングカーの上部前方を何かにぶつけて破損するという事故がとても多く発生しています。**

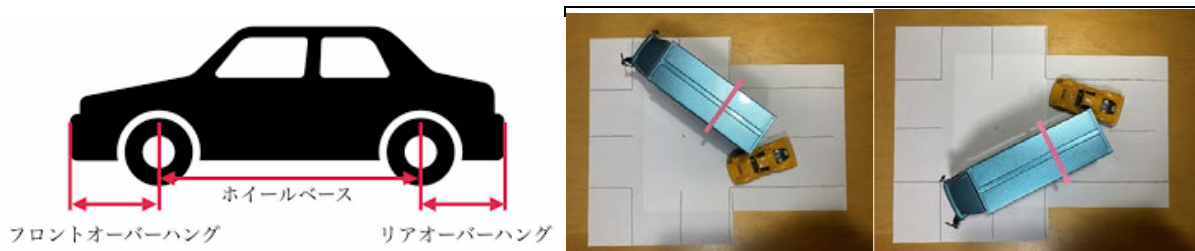


気をつけてといっても普段の運転中には気にしていないことなので、注意力を維持するのはとても難しいことですが、高架トンネルや、立体駐車場などには必ず設置されている高さ制限に関する表示には敏感に反応してください。

キャンピングカー上部（屋根）の修理費はとても高額になりますので、運転の際にはくれぐれも高さ制限を気にするようにしてください。

## ② 後輪から後部バンパーまでのリアオーバーハングについて

リアオーバーハングを意識しないで、普通車を運転している場合と同じように旋回を開始した結果、相手車両に対し損傷を与え、また自分側も後部バンパーも破損し、高額の修理代が発生する事故が頻発しています。



右左折の際、車体の最後部は、後輪外側の軌跡よりもかなり外側を通過します。

そのため、右折時に直進または左折のために左車線に停止している車に車体最後部を接触させる、あるいは、左折時に右折または直進のために右側車線に停止している車に車体最後部を接触させるという事故が頻発しています。

これを防ぐためには、**右折、左折ともに、ハンドルを急に大きく切るのではなく、車体が前進するのに合わせて少しずつハンドルを切っていく操作が必要になります。**

これは前進だけでなく、バックで車庫入れを行う際も同様です。駐車スペースに対して角度がある状態でバックを続けると隣の区画に駐車している車両に接触する可能性があります。

何度か切り返しを行って、できるだけまっすぐバックできるところまで角度を浅くしてから駐車スペースに入っていくようにしてください。

バックモニターカメラは距離感がつかみづらいので、ギリギリまでバックせず、早めの切り返しを行うようにしてください。

更にバックで車庫入れを行う際、普通車であればリアオーバーハングは車によって差はあるものの 5～60cm という場合がほとんどですが、キャンピングカーの場合には、1m 以上のリアオーバーハングがあります。



したがって、キャンピングカーで後輪が輪止めに当たる位置までバックしようとする駐車場によってはリアバンパーが障害物に接触する場合があります。

したがって、キャンピングカーでバックする際には、必ずバックモニターを参考にして後方の障害物に接触しないようにしてください。ただし、バックモニターカメラの映像では正確な距離が分かりませんので障害物ギリギリまで近づかないことも重要です。



### ③ Tail Hit Clearance について



左がジル、右がパタゴニアの写真です。どちらの車両もオーバーハングが1m以上あります。

ジルの方は、Tail Hit しないように後輪からバンパーに向けて少しずつ上がっています。

パタゴニアの方は、後部床下に汚水タンクがある関係で、後輪からバンパーまで水平のままになっています。そのため、特にパタゴニアにおいては、コンビニなどから道路に出る際に歩道から車道へのスロープの角度が大きい場合には後輪が車道に出たタイミングで後部バンパーがスロープ部分に接触してしまい、そのまま進んでしまうと、後部バンパーを大きく破損してしまう Tail Hit になりがちです。



この Tail Hit を防ぐためには、**車高の低い車での操作と同じように「段きり」と呼ばれる操作が必要です。**段きりとは、歩道から車道に出る際に、できるだけゆっくりとしたスピードを保ち、車道に対して直角ではなくできるだけ角度をつけて進入することで車道に入る際にタイヤが1本ずつ車道に出ていくようにする操作です。

特に、後輪の2つのタイヤが同時に車道に出ることを避ける操作が必要です。

ここで更に注意して欲しいことがあります。

**歩道から車道に出る際には、必ず左折で車道に入る。右折して反対側車線に入ろうとしないこと**です。

片側1車線の道路だと、歩道から車道を直進し、反対側車線に入るように右折したくなります。これが非常に危険です。この反対側車線に入るまでに直進してしまう為に Tail Hit となってしまいます。

歩道から車道に出る際に、Slope 角度を意識し、角度が大きい場合には、絶対に反対側車線に入ろうとしないでください。

#### ④ 横風に煽られやすい

表面積が大きいためトンネル出口や橋の上などでの横風や、大型バス、トラックなどに追い越される際に車体前面から側方に押し出される風によって、キャンピングカーの車体があおられることがよくあります。強い横風を受けても急ハンドル操作はNGです。ハンドルをしっかりと握り、軽くカウンターステアリングを当てながら直進を保ちます。また速度が速いほど強風を受けた時の風圧が強くなるので、ゆっくりと速度を落として車の安定性を高めましょう。

#### ⑤ 急ハンドルは禁止



キャンピングカーは重心が高い車ですので、急ハンドルは禁物です。

車線変更などの際の合流角度ができるだけ浅い角度になるようにゆっくりと車線変更するようにします。急角度で車線変更しようとするとう重心が高いためにバランスを失って、横転事故となる場合もあります。

パタゴニアはフルタイム4WDのガソリン車ですので、120kmくらいまで速度は出ますが、そのような速度では安定性がかなり低下しています。

高速道路では80~90km/h、追い越し時のみ100km/hくらいに速度を抑えて安全運転で走行するようにしてください。

#### ⑥ 制動距離が長い

パタゴニアは人員や荷物の重量も含めると車重が約3.5トンになります。ブレーキの効き具合が普段乗られている自家用車よりもかなり悪く感じられ、実際にも制動距離が想像以上に必要になりますので、十分に車間距離を取って走行するようにしてください。

ちなみにパタゴニアは背の高い車ですので、車間距離をたっぷり取って走行しても後の車からは見えないので煽られることはほとんどありません。

## 車外装備品について

運転席から時計まわりで説明します。

### タイヤロック



盗難防止のため、東和田ステーションに駐車中はタイヤロックを設置しています。

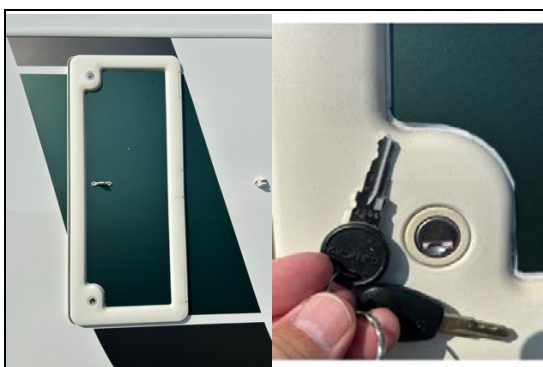
鍵束の中にタイヤロック解除用の鍵があるのでこれを使用してロックを解除します。

解除するには、ロックの赤色の部分を繋いでいる横棒の中央あたりに鍵穴カバーが付いていますのでカバーを外して鍵を差し込んでひねるとロックが外れます。

車両返却時に設置する際は、鍵穴に鍵を差し込んでひねった状態にするとロックの黒色部分が大きく開きますので、鍵を差したままでタイヤホイールをタイヤロックが外れない位置まで挟み込みます。

位置が決まったら、鍵をぬぎ、カバーをかけます。

### エアコン用換気ドア



キャンプ場やRVパークなど外部AC電源が利用できる場所であれば、運転時間を気にせず車内に設置しているウインドウエアコンを使用することができます。

パタゴニアにはリチウムイオンバッテリーを搭載しているため短時間（何時間使えるかは未確認）であればバッテリーを用いてエアコンを運転させることもできますが、バッテリー容量を使い果たしてしまうと他の電化製品を車内で使うことができなくなってしまいます。

エアコンを作動させる際にはこの外部ドアを必ず開けた状態にして外気との吸排気ができるようにします。このドアを開けずにウインドウエアコンを運転しても室内温度が下がりません。

鍵穴は上下2箇所あり、写真にある鍵でどちらも開けることができます。  
鍵を回す際には、扉部分を軽く車体に押し当てるようにしながら回すと楽に回ります。

**マルチルームアクセスドア** 開閉禁止



このドアはマルチルームを外から開ける際に使用しますが、外から開けて使用する必要がないので開閉禁止とします。

**はしご** 利用禁止



スタッフが洗車、メンテナンス等の際に使用します。  
利用者がはしごを使って屋根に登ることは禁止します。

**汚水タンク 排水レバー** 排水作業は管理者が行うので基本的には利用者が排水する必要はありません



後部バンパーの中央やや左寄りの車体下に汚水タンク排水時に使用するレバーがあります。

車内の流し台の蛇口から出た水は、汚水タンクに貯められます。

流し台シンクの下に清水タンク 18L が2個装備されており、この全ての水を汚水タンクに貯められます。

汚水タンクから排水しない場合は、このレバーが一番奥まで押した状態にしておきます。

排水の際には、レバーを一番手前まで引きます。

レバーを引くとすぐに重力により排水が始まりますので、排水口の真下にバケツなどを置いてから排水レバーを引くようにします。排水が終わったら、レバーが一番奥まで押し込みます。

排水が終わったら、レバーを一番奥まで押し込みます。

排水タンクは約 40L 分の容量しかありませんので、それ以上の清水を使った場合には流し台シンクから水が流れない場合があります、その時には利用者が排水作業を行う必要があります。

**排水を行う場合は、マナーとしてバケツなどで受け止めて、排水を地面に直接垂れ流さないようにしてください。**

基本的にはカーシェアを終了し車両返却終了後に東和田ステーション管理者が排水作業を行います。

### エントランスドアストッパー



エントランスドアをフルオープン状態で固定する際に使用します。

T字状になった掛け具を車体側に引っ掛けて使用します。

掛け具はプラスチック製で強度がありませんので、掛け具を引っ掛けた状態でエントランスドアを思い切り閉めようとするすると掛け具が破損する可能性がありますので、エントランスドアの開閉には掛け具の位置にご注意ください。また、強風時に掛け具を使用することは同様の理由で避けてください。

### 車体左側収納ドア 開閉禁止



外部からロックを外してドアを開閉し物を出し入れできますが、開閉禁止とします。

### 外部電源差し込み



車体左側収納ドアの左に 100V 外部電源入力があります。ゴムのキャップが被せてあるので、外部電源を接続するにはキャップを外してから接続します。外部電源使用終了後はゴムキャップを被せてください。エントランスドア内側物入れに、外部電源接続コードがあります。

メス側端子部分をよく見るとギザギザのついたスリーブに矢印が1箇所ついています。その矢印を上に向けて、ソケットを差し込めば接続完了です。反対側はコンセントプラグになっているので、それをキャンプ場に設置されている外部電源コンセントに差し込みます。

外部電源を接続すると車内でピッという音がして、車内運転席後ろ右側の壁に設置されている電圧計に表示される電圧が 14V 以上になっていれば外部電源が接続されていることが確認できます。

外部電源を外す際は、コンセントプラグを外す際には、ギザギザを左に回してからプラグを引き抜くようにします。ギザギザを左に回すのは抜け落ち防止のロックを外すためです。

ギザギザを左に回さないでコンセントプラグを無理に引き抜くとプラグが壊れるので注意してください。

### 給油口 給油口は車体左側にあります



給油口ドアのロックを外すには、運転席ハンドル下右側にあるレバーを引きます。  
レバーは2つ並んでおり、右側（道路側）が給油口用、左側がボンネット用です。  
パタゴニアへの給油は、**レギュラーガソリン**ですので間違えないようにご注意ください。

**誤って軽油を給油してしまった場合** それ以上車を走らせないことが原則です。

以下のどれかの対応を速やかにとってください。

- ・ガソリンスタンドにいるなら店員に燃料を全て抜いてもらえないかを確認する。
- ・走行中なら速やかに停止。
- ・ガソリンスタンドで対応できない場合や走行開始後の誤給油に気がついて停車した場合には、まずコールセンター（[0120-310-950](tel:0120-310-950)）に状況を伝えてください。発生場所や状況により速やかな対応が難しい場合には JAF や任意保険のロードサービスを利用することも可能です。

#### **誤給油のまま走行を続けると**

ガソリン車に軽油を給油すると、以下のような事態が起こります。

- ・エンジン出力が下がり、加速が鈍る
- ・アイドリングの不調が生じる（振動や異音）
- ・黒い排気ガスが出る（軽油の割合が多い場合）
- ・エンストを起こす
- ・エンジンがかからなくなる

ガソリン車は、ディーゼル車と比べて給油直後からすぐ停止することは少ないです。だからと言って、自分で運転して整備工場まで行こうとするのは絶対に避けましょう。

#### **燃料の入れ間違いでかかる費用**

- ① タンク洗浄だけなら（1～5万円）
- ② 誤給油をして車を走らせ、アイドリングの不具合をエンストなどが起こった場合は、配管やエンジンの洗浄、さらには部品交換が必要となる可能性があります。配管部品などの洗浄や交換が生じると、そのための費用が5～10万円、燃料の供給部品（インジェクター）の交換が必要になると2～10万円ほど必要になります。さらにエンジンの大規模な修理が必要なら、最終費用は数十万円以上になる可能性もあります。

**とにかく誤給油した場合には車両を整備工場に運び誤給油した燃料を抜き、タンク内の洗浄を行うことが基本対応です。**

給油の際は、利用者ご自身の給油カードやクレジットカード、現金などでのお支払いは不要です。  
JoyCa ではガソリン代については、距離料金として車両返却時に確定する利用時間内の走行距離に応じてあらかじめ設定している距離料金（30円/km）にて利用終了後に精算させていただいています。  
なお、この距離料金は、ガソリン価格の高騰などの影響により適時見直しを実施しています。



運転席サンバイザーに ENEOS ビジネスカードを装備していますので、給油カードとしてお使いください。

ENEOS ビジネスカードは、全国どこかの ENEOS ガソリンスタンドでも契約料金にて給油ができますが、高速道路にあるガソリンスタンドでの給油については契約価格が適用されませんのでご注意ください。

給油レシートは、グローブボックス内に領収書入れとして小型クリアファイルを設置していますので、そちらに保存をお願いいたします。後日管理者がレシートを回収します。

運転席インジケーターにある給油ランプ点灯後一般道で約 50km の走行が可能ですが、早めの給油をお願いいたします。満タンで約 60L のガソリンが給油できます。

およその燃費は荷物の積載量や運転の仕方にもよりますが、一般道 5~7km/L、高速道路 7~9 km/L です。原則として車両返却の際の満タン返しの必要はありません。しかし返却時に給油ランプが点灯するような場合には、お手数ですが少なくとも 5L 分の給油の上でのご返却をお願いいたします。

(JoyCa の FAQ から抜粋)

クルマに搭載されているガソリンカードの提携スタンドが見つからずガス欠になりそうな場合、恐れ入りますが、最寄りのガソリンスタンドでお客様が料金を一旦お立替えのうえで給油をしてください。その際、必ずお立替えいただいたガソリン代の領収証を受領いただき、コールセンター ([0120-310-950](tel:0120-310-950)) までご連絡ください。後日、領収証と引き換えに JoyCa より返金させていただきますので、下記送付用封筒にて領収証を弊社までお送りください。なお、返金方法はご利用料金との相殺（相殺が可能な場合）となります。

#### **サイドオーニング** 使用禁止



サイドオーニングとは、車体左側上部に設置されている可動式の日除けです。

サイドオーニング展開中に強風に煽られるなどして大きく破損する事故が多発していますので、使用禁止とします。

**サイドオーニングに破損が発生した場合、車両保険の補償適用外のため、理由を問わず免責なしの実費での修理費用を請求いたしますのでご注意ください。ちなみにパーツの価格は約 25 万円です。**

## 運転席装備品について

### ハンドルロック



盗難防止のために東和田ステーションに駐車中はハンドルロックをかけています。

- ① ロックを外すには、鍵束の中のハンドルロック解除用の鍵をシートベルト掛けに差してあるマウントの鍵穴に差し回します。鍵を回すと真ん中の写真の黄色のコードを手前側に引き抜くことができます。
- ② 黄色のコードを引き抜くと、右の写真のようにシートベルト掛けに差してある赤いカバーを外すことができます。
- ③ 最後にシートベルト掛けに刺さっているシルバーの金具を、通常のシートベルトを外す時と同じようにしてロックを外します。

車両返却時にハンドルロックをかける際は、右の写真のように黄色のコードをハンドルにからませます。次に、シルバーの金具を赤いマウントに差し込み、右の写真の状態を作ります。この状態から、真ん中の写真のようにシルバーの金具をシートベルト掛けに差し込みます。

### エンジンの掛け方

この車には、盗難防止用の隠しスイッチがあります。  
ただ単にエンジンキーを回しただけではエンジンがかかりません。

エンジンを始動するには、まずエンジンキーをシリンダーに差し、ON 位置まで回します。



次にカーナビの左にある物入れ内部の上部中央やや右側の手前あたりを指で触ると、丸い形に少し窪んでいるところがあります。その窪み付近にしばらく指で触れているとピピッという音がします。このピピッという音が聞こえたら隠しスイッチが解除されていますので、引き続きエンジンキーを Start 位置まで回すとエンジンを始動できます。

エンジン始動時にのみこの隠しスイッチに触れる必要があります。エンジン停止時には、隠しスイッチの操作は何も必要ありません。

#### バックモニターカメラ映像



パタゴニアには車体後部上方にバックモニターカメラがついています。運転席中央上部のルームミラーは、エンジンを始動すると左半分に後方の映像が常時表示されます。右半分は、普通の鏡になっています。また、シフトレバーをバック位置にした時のみ、カーナビの画面に車体後方の映像が表示されます。

#### カーナビの電源切り替えスイッチ



カーナビの右下にサブと書いたスイッチがあります。これは、エンジンキーを OFF 位置にしてもカーナビを短時間使いたい場合に使います。通常位置は下側を押した状態ですが、エンジンキーを OFF にした状態でカーナビを使いたい場合にはこのスイッチの上部を Push すると、車のバッテリーを使ってカーナビに電源が入ります。しかし長時間この位置でカーナビを使用すると、エンジンスタートができなくなる可能性がありますので基本的にはこのスイッチ位置は下側を Push の状態にあることを常に確認してください。

## 助手席側 A ピラー付近のモニター



パタゴニアは、助手席側の窓より後方が非常に見にくくなっています。

左折時の巻き込み防止確認の補助として、A ピラーの付け根付近にモニターを設置しています。

左折時には、助手席側ドアミラーやガッツミラーと共にモニターも良く見て歩行者等の巻き込み防止に活用してください。

## ドアの集中ロックについて

エンジンキーについているリモコンで運転席、助手席、後部エントランスドアのドアロックを同時に ON/OFF できます。

それ以外のアクセスドアについては、鍵を使用して手動にてロックの ON/OFF を行います。

また、運転席ドア側肘掛けについているスイッチでもドアロックを同時に ON/OFF できます。

さらにパタゴニアには車速連動オートロック機能があります。

- ① 時速 15km になると、自動でドアロックされます。
- ② シフトレバーを P 位置にすると、ドアロックが解除されます。

## ETC カード車載器 ETC カードは利用者ご自身のものをご使用ください。

ETC カード車載器は、助手席側グローブボックス内にあります。

極稀に発生する不具合ですが、高速道路料金所の ETC カード読み取り機の設置によっては、キャンピングカーのバンクベッド部分が運転席上方に張り出していることが原因と思われるが、ETC カード情報の読み取り不能となり、ETC カードの車載器への未挿入と同様の状態となりバーが開かない場合があります。料金所のバーが開かない場合があり得ることを予想しての徐行をお願いいたします。

また、バーが開かなかった場合は、料金所係員に ETC カードを手渡しして、ETC カードを車載器に未挿入の場合と同様の手続きを行うことで ETC ゲートを通過してください。

ETC カード車載器管理番号は、00005-06564037-000219 です。

インターネットなどで ETC カード利用記録を検索する際にご使用ください。

## キャビン内装備品について

車内は全て禁煙、キャビン内は土足禁止です

### (主電源) メインスイッチ



エントランスドアを入れて右手壁にある主電源（メインスイッチ）を ON とすると、サブバッテリーとして搭載しているリチウムイオンバッテリー（2台搭載）から DC 電源が共有される状態となります。

リチウムイオンバッテリーは、容量 100A で 12V に蓄電されているため、1 台あたり  $100\text{A} \times 12\text{V} = 1200\text{Wh}$  の電力を供給可能です。満充電の場合、FF ヒータースイッチ下にある電圧計では、13.5V が表示されます。

リチウムイオンバッテリーの充電方法は 3 つあります。

- ① 走行充電方式で、普通に走行しているだけで、目的地に到着するまでにバッテリーを満充電できるようにオルタネーター電圧に関係なく充電電圧を上げる装置をつけています。
- ② 外部 AC 電源接続時には、自動的にバッテリーが充電されています。
- ③ パタゴニアにはソーラーパネル(120W)が設置されており、太陽光発電した電力はリチウムイオンバッテリーに少しずつですが充電されています。

外部 AC 電源を使用していた場合は、出発時には満充電状態での出発が可能です。

外部電源のない場所で車中泊で連泊するなど、夜間に消費した電力を太陽光パネルによるバッテリー充電を行う場合は、太陽光パネルによる充電能力は高くないので、満充電となるまでにかかり時間がかかることが予想されます。買い出しに行くなど、走行充電による充電が短時間での満充電が可能となりおすすめです。

メインスイッチ ON にすると、メインスイッチ下にある、ポーチ灯、入口等、ダイネット上部の天井等（メイン等）を点灯させることができます。

また、そのランプに付いているスイッチを直接操作する必要がありますが、バンクベッド上の天井ライト、大ネットテーブルの壁側にある 2 箇所のスポットライト、流し台のエントランス側下方にあるエントランスドアライト、マルチルーム天井灯、換気扇並びに換気扇ライト、天井にある MAX FAN、冷蔵庫も使用できるようになります。

なお、各装備品使用時における消費電力については、別紙の使用取り扱い説明書を参照してください。

また FF ヒーターについては、主電源が OFF でも使用できます。

**キャンピングカーの使用を終えて返却する際には、必ず主電源スイッチを OFF にしてください。**

## インバーター電源スイッチ



テレビモニター下にあるスイッチの黒いボタンを押すと、ピピっという音がして、赤いランプが点きます。このスイッチを ON にすると、サブバッテリーの DC12V をインバーター(1500W)により AC100V 変換し自宅と同じように電気製品が使用できるようになります。

インバータ電源を ON にすると電子レンジ、テレビ、車内各所にあるコンセントが使用できます。電子レンジを使用する際には、Load Shedding が発生し、電子レンジへの給電が停止する場合があります。エアコンについてもインバーター電源があれば使用は可能です。しかしバッテリーのみによる電源供給では、数時間でバッテリー容量を使い切ってしまうため、キャンプ場の外部 AC 電源などを利用してください。

## 流し台



パタゴニアの流し台は、シンク下物入れに 18L 入りの清水タンクが 2 個設置されており、電動モーターにより蛇口をひねると水が出てきます。シンクから流れ出た汚水は、車体下に設置されている汚水タンクに貯水されます。この電動モーターも主電源スイッチを ON にすることで作動します。

**清水タンクへの給水は、車両貸出時点で 2 つのタンクともに管理者が完了させた状態になっています。**

清水タンクの水は手洗いや洗顔、食器洗いなどにお使いください。飲料水は、ペットボトル等の水を利用されることをおすすめします。ただし、汚水タンク内の洗浄ができない構造となっているため、食器洗いの際には、残飯などの固形物を水と一緒に流さないようにご協力をお願いいたします。

**なお、汚水タンクの排水は車両返却後に管理者が行います。利用者が排水作業を行う必要はありません。**

## ガスコンロ



パタゴニアには、常設のガスコンロが設置されていません。

車内での調理が必要な際には、自宅などで鍋料理で使用するカセットコンロや、アウトドア用コンロなどを用意して使用してください。（車両利用料金とは別に有償にてコンロの貸し出しも行なっています。）

一酸化炭素中毒防止のため、車内での調理の際には、換気扇を作動させるなど換気には十分ご注意ください。

**車内での調理については、焼肉や揚げ物など、室内に匂いが残ってしまうような調理はお控えください。**

ガスコンロの使用は、お湯を沸かす、トーストを焼く、卵やソーセージを焼くなどの簡単な調理に止めるようにし、電子レンジの活用をお願いいたします。

## テレビ



カーナビで視聴しているワンセグ放送と同じものをテレビモニターにより見ることができます。

まず、テレビモニター背面の壁にある入力切り替えスイッチが、入力1側が赤くなっていることを確認。



・キャンプ場などエンジン停止時は、カーナビの電源をサブバッテリーモードスイッチを ON にする。



- ・ 白いリモコンの電源ボタンによりテレビ電源を ON にする。



- ・ 白いリモコンの緑色の入力切り替えにより入力 3 を選択する。
- ・ これでカーナビ側で選局している画面と同じものがテレビモニターで見ることができます。
- ・ 選局はカーナビ側の操作でしかできません。(白いリモコンではチャンネル切り替えができません)

**Amazon Fire Stick TV**    有料 Option を申し込んだ場合に使用できます

- ① テレビモニターの裏側の下の方に丸いリングがあります。これを下に引いてテレビアームを固定しているロックを外します。



- ② ロックが外れたら TV アームを伸ばし、テレビの裏面が見えるようにします。



- ③ HDMI 端子 1 と 2 が上下に並んでいますが、1 に HDMI 端子をセットします。



④ 接続ケーブルの反対側にある電源プラグをコンセントに繋がします。



⑤ テレビリモコンの電源を入れ、入力切り替えボタンで入力1を選択します。

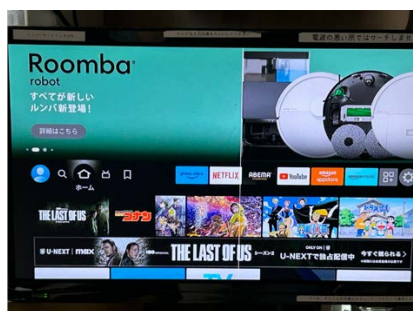


⑥ Fire Stick TV の電源を入れ、ホームページを表示させます。

この時、「下の画面のようなメッセージが表示された場合は、テレビリモコンの決定ボタンを押すとメッセージを消すことができます。



⑦ Fire Stick TV のホーム画面を選択し、所望のコンテンツにログインします。



## FF ヒーター



FF ヒーターとは、エンジンを動かさずに車内暖房を可能とする燃焼式ヒーターです。

テントキャンパーがすぐそばにいるキャンプ場など静粛性を要求される場所で使用します。

FF ヒータースイッチを時計回りに回転させるとスイッチ中央に緑色の矢印ランプが点灯し、FF ヒーターの電源が入ったことを示します。

スイッチ中央で赤いランプが点滅している場合はエラーが発生して点火ができていない状態なので、いったんスイッチを OFF 位置に戻し、しばらくしてから再点火してみてください。

しばらくすると、車内の吹き出し口から空気を送風音がしてきます。さらに時間が経つと、ポンプの回転するようなカタカタ音がした後、ジェットエンジンがスタートする時のように始動音がだんだんに大きくなり、暖かい空気が吹き出し口から出てくるようになります。

あとは、好みの温度設定となるように、矢印のつまみ位置を回転して調節します。

室内が所望の温度に達するとサーモスタットの働きにより、燃焼状態がコントロールされます。

FF ヒーターは、ガソリンタンクからエンジンにつながる Fuel Line を分岐させてヒーターへの燃料として使用しています。また、燃焼にあたっては車外の空気を取り込み、車外に排気されます。

車内の空気は全く汚れないため一酸化炭素中毒の心配はありません。

燃費は、外気温や室内温度設定によっても異なりますが、一晩中使用しても、4～5L 程度です。

給油時は危険防止のため FF ヒーターは停止してください。

FF ヒーターの使用を終えるときは、FF ヒータースイッチを反時計回りに一番左まで回し、スイッチ中央の緑矢印ランプが消灯することを確認します。

スイッチを OFF にしてからしばらく時間差があった後にヒーターの音がしなくなり完全停止します。

## エアコン



パタゴニアのエアコンの使用は冷房専用です。暖房は FF ヒーターを使用します。

エアコンのバッテリーでの駆動は短時間なら可能ですが、バッテリーが上がってしまうとエアコンだけでなく他の電化製品も使用できなくなってしまいます。

**原則としてキャンプ場など外部 AC 電源が利用できる場所での使用に限定してください。**

- ① 車体進行方向に向かって右側中央やや後ろの外部アクセスドアを開けます。
- ② 車内に入り、インバータースイッチ (室内左前方のテレビの下) が ON になっていること確認後します。
- ③ エアコン前のドア (鏡がついているドア) を開け、待機電力を節電するために抜いてあるコンセントプラグをコンセントに挿します。
- ④ コンセントプラグを指すと、ピピッと音がして、エアコンの電源ランプ (緑) が点滅します。
- ⑤ エアコンのリモコンスイッチにあるエアコンの電源を ON にすればエアコンが作動します。

走行前には、必ずエアコン電源を OFF とし、フラップ位置をもとに戻し、外部ドアの施錠までしっかりと確認してから出発するようにしてください。

ドアが開いたまま走行すると、風圧によりまたはドアが障害物に接触することにより破損する危険性があります。

## 冷蔵庫



冷蔵庫はコンプレッサー方式で容量は 65L あります。製氷室では氷を作るもできます。

エントランスドアすぐにある主電源スイッチを ON にすると使用できるようになります。

冷蔵庫の扉を開け、奥の壁中央にあるダイヤルスイッチを時計回りに回すと冷蔵庫内ランプが点灯して冷却が始まります。

冷蔵庫ドアの上部にあるダイヤルスイッチは最初から 1 時の位置にあり、メインスイッチを ON にするとすぐに冷蔵庫の電源も ON となります。このダイヤルスイッチを更に時計回りに右に回すと冷却温度を低く設定できます。

レンタル利用開始時には全く冷却されていませんので、車両の利用を開始したら、まず冷蔵庫の冷却を開始するのが良いでしょう。約 1 時間で冷蔵庫内が十分冷えた状態になります。(製氷室も使用できます)

スーパーやコンビニで氷や冷凍食品等を購入し冷凍庫に入れることで、冷蔵庫内が冷える前の時間を短縮することができます。

時計回りに一番左まで回した状態が最低温度となりますが、温度設定を低くするほど消費電力が大きくな

ります。

冷却開始時は最低温度設定とし、庫内が十分に冷えた後の定常状態でのスイッチ位置は、つまみが6時位置あたりがおすすめです。

現在、このダイヤルスイッチは固くて1時位置よりも左に回すことができないため、ダイヤルスイッチにより冷蔵庫の電源をOFFにすることができません。

冷蔵庫の電源をOFFにするには、メインスイッチをOFFにする以外に方法がありません。

車両を返却する際には、バッテリー上がりを避けるため必ずメインスイッチがOFFになっていることを確認してください。

また、ここでとても大事な注意点があります。



製氷室を使用する際、製氷室扉は手前側下向きにOpenします。しかし、この扉はOpen状態（水平位置）以上に開くと、扉付け根にあるヒンジが割れてしまいます。

また扉が開いた状態で上からの荷重がかかった際には、その荷重を支える金具などありませんので、とても簡単に壊れてしまいます。

製氷室にもものを入れる際には、扉を開けすぎないように十分注意してください。

特に扉の扱いについての注意点を知らないお子様等が触ると壊れる可能性が高くなります。

冷蔵庫の開閉は必ず大人が行うようにしてください。

車両返却の際は、冷蔵庫内を乾燥させカビの発生を防止するために、冷蔵庫のドアは開けたままにし、製氷室ドアにスキマを開けるために付属のタオルを挟んでください。

## MAX FAN



MAX FAN は天井にある吸排気どちらにも使用できる換気扇です。

インバータースイッチがONになっていなくても、主電源スイッチがONになっていれば使えます。

春先や秋など、エアコンを使うほどでもない気候の時や、車内を換気したい場合に使います。  
窓の一部を開けて使用すると吸排気の効率が上がります。

① 真ん中の写真のハンドルを Open 方向に回すと、MAX FAN 上部にある上部カバーが持ち上がり、外気を取り入れやすくなります。

どちらが Open 方効果は軽く回る方と考えてください。

固くなって無理に回すとネジが振じ切れてしまいます。

② 右の写真にあるように、ON/OFF スイッチで電源を入れます。

電源が入るとすぐに FAN が回り始めます。

吸気とするか排気とするかは、IN/OUT スイッチで切り替えます。

切り替えは FAN が回っている状態で IN/OUT スイッチを押して構いません。

風量調節は、三角形の +/- スイッチで行います。

## 窓

キャビンの窓には2種類あります。

ダイネット横、車体の進行方向に向かって右側にあるスライド式窓と、それ以外の場所の押し出し窓です。

・スライド式窓は、窓左側の中央にあるツマミを握るとロックが外れるので、そのまま後方向に引っ張ると窓が開きます。



・押し出し窓は、窓に数箇所ついているハンドルレバーを回転させるとロックが外れます。



ロックを外した後で、窓を外側に押すと開きます。

窓を開いた状態で固定するには、押し出した状態から、窓を少し戻すとカチッとロックがかかる感じがあり手を離しても半開き状態がキープできます。この半開き状態の角度は4段階ほどあります。

ただし、窓を90度以上開けると窓が外れて落ちてしまう可能性がありますので、開け過ぎないように注意してください。



また、すべての窓には、サンシェードと網戸がついています。

網戸を使いたいときは、窓の下側についているツマミを握りながら一番上までスライドさせます。

すると一番上で網戸の枠がカチッとハマって固定されます。

その状態でツマミを握らないで持ちながら、枠を下げていくと、網戸につながった状態でサンシェードが降りてきます。完全に遮光したいときは、ツマミを一番下の枠まで下ろします。

サンシェードを動かす際は、網戸の枠を水平状態に保った状態で上下にスライドさせるようにします。

水平でない状態で上下に動かすとサンシェードが途中で引っかかってしまいます。

押し出し窓のロックは、完全クローズ状態と、わずかに換気ができるクローズ位置の2種類があります。回転させるレバーの先が2股に別れており、この2股で窓枠をまたぐ状態だとわずかに換気位置、二股の両方が窓枠よりも内側にあると完全クローズ位置です。

走行前には、押し出し窓が完全クローズ位置になっていることを十分に確認してください。

押し出し窓を閉め忘れたまま走行した場合、風圧により、もしくは障害物に接触して窓が破損する場合がありますのでご注意ください。

## ベッド展開について

パタゴニアにはベッドが2箇所あります。

バンクベッド（運転席の上）とダイネット（ダイニングテーブル）展開ベッドの2つです。

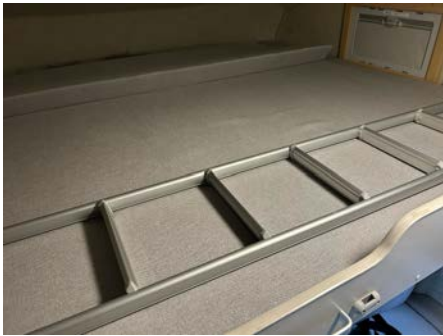
### ① バンクベッドの展開方法



- ・バンクベッド手前についているハンドルを持って手前に引きます。



・一番手前まで引き出した状態



・バンクベッド内に置かれているハシゴを取り出します。



・バンクベッドの左側ハンドル付近にハシゴをかけます。

この時、ハシゴの足は、床にしっかりとついた状態であることを確認してください。



・ハシゴを上り、バンクベッドの奥にあるマットが浮いた状態になっているので前に押し出します。

あとは、寝具を敷いて寝るだけです。

奥に行くほど天井が低くなっているので手前に頭、前方に向かって足を向ける方向で寝ることになります。

スペースとしては、幅も奥行きも 190cm あります。大人なら 2 人、または大人 1 人と子供 2 人の合計 3 人が就寝できるスペースがあります。

寝具の貸し出しはありませんので利用者ご自身でご準備をお願いいたします。

## ② バンクベッドの収納方法

- ・バンクベッドに敷かれていた寝具を片付けます。
- ・ハシゴを外します。
- ・バンクベッドを一番前まで押します。
- ・前方にあるマットレスが手前側マットレスの上に乗っかる形になります。



ハシゴをバンクベッドの上に戻して、ベッドの収納は終了です。

## ③ ダイネット（ダイニングテーブル）展開ベッドの展開方法



- ・ダイネットテーブルの壁側に 2 箇所、テーブルをレールに固定するつまみがついています。このつまみが上に飛び出ている状態がロック位置です。このつまみをそれぞれ下に押し込みます。



- ・ロックを外して、テーブルを運転席後ろにあるソファの上に写真のように横向きに置きます。



・ テーブルの脚を手で上に押し上げると、脚をたたむ事ができます。



・ テーブルの脚をテーブル天板の裏面についた状態にします。



・ クッションの下にあるテーブル支え板があるのを確認します。



・ テーブルロックが壁側ではなく、室内側に来るようにテーブルを 180 度回転させ  
テーブル支え板の間にテーブルを置きます。



・ 助手席後ろにある背もたれクッションをテーブルの上へのせます。



・冷蔵庫側のソファの背もたれクッションを外し、テーブルの上ののせます。



・八の字になっているクッションを手でテーブルに向けて押し下げ、全てのクッションがフラットになるように手で押して調整してベッド展開の完成です。

ダイネット展開ベッドの収納は逆の順番で戻していきます。

最後にテーブルを固定する際、ロックのつまみが上に出ている状態がロック状態です。

なお、ダイネットテーブルは、脚1本と壁側のロック2箇所のみで支えられています。

ダイネットテーブルをテーブルとして使用する際には、テーブルの上に乗ったり、体重をかけたりすると荷重に耐えきれずに破損する可能性がありますのでご注意ください。

## マルチルーム



キャンプ道具などの物入れスペースとしてお使いください。

## サブバッテリーの使用について

パタゴニアには 100AH のリチウムイオンバッテリーが 2 台、サブバッテリーとして搭載されています。また、屋根にはソーラーパネルが設置されており昼間に快晴であればバッテリーは常に充電されています。さらに走行充電システムが装備されているので、2 時間程度走行するとバッテリーを満充電することもできます。

車内装備品で一番電気を消費するのは冷蔵庫、エアコン、その次が電子レンジです。

**バッテリー駆動でのウインドウエアコンの長時間使用は避けてください。**

### ・冷蔵庫について

主電源が ON 位置にあればインバータースイッチが ON でなくても冷蔵庫はずっと利用できます。

おそらく車両利用期間中はずっと冷蔵庫には電源が入った状態となっているため最も電気を消費します。最低温度の温度設定（時計回りで一番右側）とするとそれだけ電気を消費してしまいますので、できれば温度設定はつまみ位置が 5 時の位置になるあたりがエコな設定となります。

### ・電子レンジについて

バッテリーの消耗を抑えるため 1 回あたりの使用は 2、3 分程度となるようにしてください。

バッテリーの残容量が少ない場合には、電子レンジが使用できない場合があります。

そのような場合には、エンジンを始動しアイドリング状態にするとエンジン発電機からバッテリーへの充電が開始されるため、電子レンジが使用できる場合があります。

この 2 点に気をつければ、2 泊 3 日程度のキャンプであればバッテリーが上がる心配はありません。

## 東和田ベースを出発する前に確認すること

走行を開始する前には、以下の項目の確認を必ず行なってから出発するようにしてください。

- ・車外を1周して車体に東和田ベース管理者との間で事前共有できていない傷やダメージがないこと。  
もし事前共有ができていない傷やダメージが見つかった場合には、必ず出発前にその箇所を携帯電話のカメラで撮影し、東和田ベース管理者にダメージを発見したことの連絡とそのダメージ部分を写した画像をメール送付してください。  
出発前にその連絡及び画像による記録がなかった場合には、車両返却後に管理者が発見した傷が出発後に発生したダメージであるもの判断し補修費用の負担をお願いする可能性がありますのでご注意ください。
- また、JoyCa コールセンターにも同様にその旨を連絡してください。

コールセンター 24時間 OK 0120-310-950

- ・盗難防止用タイヤロック、ハンドルロックを外す。
- ・すべての外部ドア、窓が完全に閉まっていて、ロックがされていること。
- ・車内各所の物入れドア、引き出し等のロックが確実になされていること。
- ・冷蔵庫のドアがロックされていること。

## 宿泊地を出発する前に確認すること

走行を開始する前には、以下の項目の確認を必ず行なってから出発するようにしてください。

車外を1周して以下のことを確認する。

- ・日常点検(15項目)を実施すること。
- ・すべての外部ドア、窓が完全に閉まっていて、ロックがされていること。
- ・外部電源コードが外され、車内に収納されていて、外部電源接続部にゴムキャップが装着されていること。
- ・車外にキャンプ道具等の忘れ物がないこと。
- ・ゴミが駐車位置の周囲に放置されたままになっていないこと。

車内に入って以下のことを確認する。

- ・車内各所の物入れドア、引き出し等のロックが確実になされていること。
- ・冷蔵庫のドアがロックされていること。

## 車両返却前に確認すること

- ・ガソリンの給油ランプが点灯していないこと。  
(点灯していた場合は、お手数ですが少なくとも5L分の給油をお願いします)
- ・サイドブレーキが確実にかかっていること。  
(東和田ベースの駐車スペースは前面道路に向けて緩やかな下りになっています)
- ・すべての外部ドア、窓が完全に閉まっていて、ロックがされていること。
- ・冷蔵庫内に食品の置き忘れがなく、温度調節スイッチがOFF位置(矢印が上向き)であること。
- ・FFヒータースイッチがOFFになっていること。
- ・主電源スイッチがOFFになっていること。
- ・車両を1周して車体全般を見て回り、出発前にはなかった傷やダメージがないかを確認してください。
- ・盗難防止用タイヤロック、ハンドルロックをかけてください。
- ・ゴミを車内に放置しないでください。東和田ステーションは無人のためゴミの回収はできません。
- ・忘れ物がないかを確認してください。

# 日常点検チェックシート

## 自家用乗用車の日常点検チェックシート

点検実施日 2025年 月 日

判定 ○ or ×



### 1 ブレーキ液の量

リザーバ・タンク内の液量が規定の範囲(上限ラインと下限ラインとの間)にあるかを点検します。

### 2 冷却水の量

リザーバ・タンク内の液量が規定の範囲(上限ラインと下限ラインとの間)にあるかを点検します。

### 3 エンジン・オイルの量

エンジンに付いているオイル・レベルゲージを抜きとり、付着しているオイルを拭き取ってからゲージをいっぱい  
に差し込み、再度抜き取った際にオイルの量がオイル・レベルゲージにより示された範囲内にあるかを点検します。

### 4 バッテリー液の量

バッテリー液の量が規定の範囲(上限ラインと下限ラインとの間)にあるかを、車両を揺らすなどして点検します。

### 5 ウインド・ウォッシャー液の量

ウインド・ウォッシャー液の量が適当かを点検します。

### 6 ランプ類の点灯・点滅

エンジンスイッチを入れ、ランプ類の点灯・点滅具合が不良でないか、レンズなどに汚れや損傷がないかを  
点検します。

### 7 タイヤの亀裂や損傷の有無

タイヤの亀裂や損傷の有無、タイヤに異物が付着したりかみ込んだりしていないかを入念に点検します。

### 8 タイヤの空気圧

タイヤの接地部のたわみ具合を確認して、タイヤの空気圧が規定の範囲内であるかを点検します。

### 9 タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さが十分であることを、接地面のスリップ・サインを目印に点検します。スリップ・サインは、タイ  
ヤ側面の三角マークのある位置の接地面に現れます。

### 10 エンジンのかかり具合・異音

エンジンが速やかに始動しスムーズに回転するか、またエンジン始動時やアイドリング状態で、異音がないかを点  
検します。

### 11 ウインド・ウォッシャー液の噴射状態

ウインド・ウォッシャー液を噴射させ、ワイパーの作動範囲に噴射されるかを点検します。

### 12 ワイパーの拭き取り能力

ワイパーを作動させ、低速および高速の各作動が不良でないか、ウインド・ウォッシャー液がきれいに拭き取れるか  
を点検します。

### 13 ブレーキの踏み残りしろと効き具合

ブレーキ・ペダルをいっばいに踏み込んだとき、床板とのすき間(踏み残りしろ)や踏みこたえが適当であるかを  
点検します。

### 14 駐車ブレーキの引きしろ(踏みしろ)

駐車ブレーキをいっばいに引いた(踏んだ)とき、引きしろ(踏みしろ)が多すぎたり、少なすぎたりしないかを点検  
します。

### 15 エンジンの低速・加速状態

エンジンを暖機させた状態でアイドリング時の回転がスムーズに続くか、また、エンジンを徐々に加速したとき、ア  
クセル・ペダルに引っかかりがないか、スムーズに回転するかを走行するなどして点検します。